



# 卓 話



## 「趣味と人生」 心の響き・口笛は我が心の友 ヤマハ横浜口笛教室講師 高橋 一眞氏

このたびは、12月20日例会にお招きいただき、誠にありがとうございます。

会員の大野様からお声を掛けて頂きました時は、素晴らしい方々の参加されているクラブですので一瞬たじろぎましたが、梶浦会長の基本方針を拝読させていただき、この例会場が「一服の清涼飲料水の如く、憩いの場になれば」との主旨に、私もホット致しまして、お引き受けさせていただきました。



私は現役時代からいつも「趣味と人生」というテーマを頭に描き、同じ生きるなら「多色刷り人生で、人生3倍楽しもう」と遊び心を大切に、不真面目な？ことを考えておりました。

- ・仕事（生活手段）と趣味との両立
- ・趣味の生かし方
- ・日々澆刺と生きるには
- ・心、老いることなく

こんなことを考えながら今日までの人生を送ってまいりました。

幼少の時には、早朝から夕方日が暮れるまで遊びに夢中、釣りが大好きで村人から「浦島太郎」とか、「小鳥捕りの名人」「うなぎ捕りの名人」などと呼ばれ、結構ご満悦でした。

大人になってからも、何事も食わず嫌いでは困りますので体験が大事「テニス・ゴルフ・水泳・碁・将

棋・マージャン・登山・ジョギング・サイクリング」等何でも経験してきました。

16歳で父を亡くし、波乱万丈の人生の中で、いつも心を癒してくれたものの中に、「口笛」の存在がありました。

幼少の頃、朝夕小鳥達のさえずりの中で育ち、その美しいさえずりを聴くたびに、子供心に、小鳥達の楽しそうな世界に、仲間入りできたらどんなに素晴らしいことかと夢のように思いました。

それ以来、口笛は自分の身近な物になり、広い野原や海辺で、空想に耽りながら、自分の歩んできた人生の中での思い出の曲を、口笛で吹いていると「青空を流れる白い雲のように」いつも爽やかに、自分の心に「夢と安らぎ」を与えてくれていることに気が付き、以来口笛を「我が心の響き・心の友」としております。

カナリー諸島では口笛が小学校での必修科目とか、日本で初めての「口笛合唱団」づくり、口笛愛好家の皆さんと力を合わせ、「奉仕活動の一助」になればと大きな夢を描いております。

街中はクリスマス・ムードで盛り上がりしておりますが、ちょっと変わった最もシンプルな口笛演奏でおくつろぎいただければ光栄です。

尚、本日は次の曲目を実演させていただきます。

- ・平城山（ならやま 日本古謡）
- ・初恋（石川啄木）
- ・冬の星座
- ・桜貝の歌
- ・見上げてご覧夜の星を
- ・きよしこの夜
- ・今日の日はさようなら